



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

令和 6 年度 環境経営レポート

(対象期間：令和 6 年 1 月～令和 6 年 12 月)



ダイセーエコロジー株式会社

作成日 令和 7 年 3 月 20 日

改定日 令和 7 年 4 月 15 日

目次

1. 組織の概要	3 ページ
・ 会社概要	
・ 許可の内容	
・ 施設等の状況	
・ 処理実績	
2. 環境経営方針	8 ページ
3. 環境経営目標とその実績	9 10 11 ページ
4. 主な環境経営計画	12 ページ
5. 環境経営目標の実績と評価	13 ページ
6. 環境経営計画の取組結果の評価と その評価、次年度の取組内容	14 15 ページ
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	16 ページ
8. 代表者による全体評価と見直し・指示	17 18 ページ

1. 組織の概要

1. 対象事業者名、代表者 環境管理責任者及び設立年月日

- ・ダイセーエコロジー株式会社

HP : <https://daisei-ecology.co.jp>

代表取締役社長 高田欣孝

環境管理責任者（連絡担当者兼）岡村海渡

- ・設立： 平成 19 年 10 月 31 日

2. 対象事業所及び所在地

- ・本社・工場

〒702-8006 岡山市中区藤崎 683-1

電話 086-206-2857 F A X 086-206-2738

- ・総社事業所

〒719-1133 岡山県総社市中原 88

- ・プラスチックファクトリー

〒702-8002 岡山県岡山市中区桑野 131-21

3. 事業内容（認証・登録範囲）

- ・産業廃棄物の収集・運搬、再生資源の回収及びリサイクル事業

4. 事業の規模

資本金 3,000 万円

社員数 37 名

延べ床面積 2,152 m²

5. 売上高

99,400 万円（令和 6 年度）

6. 組織図

- ・ 図-1 参照

7. 許可内容

- ・ 表-1 参照

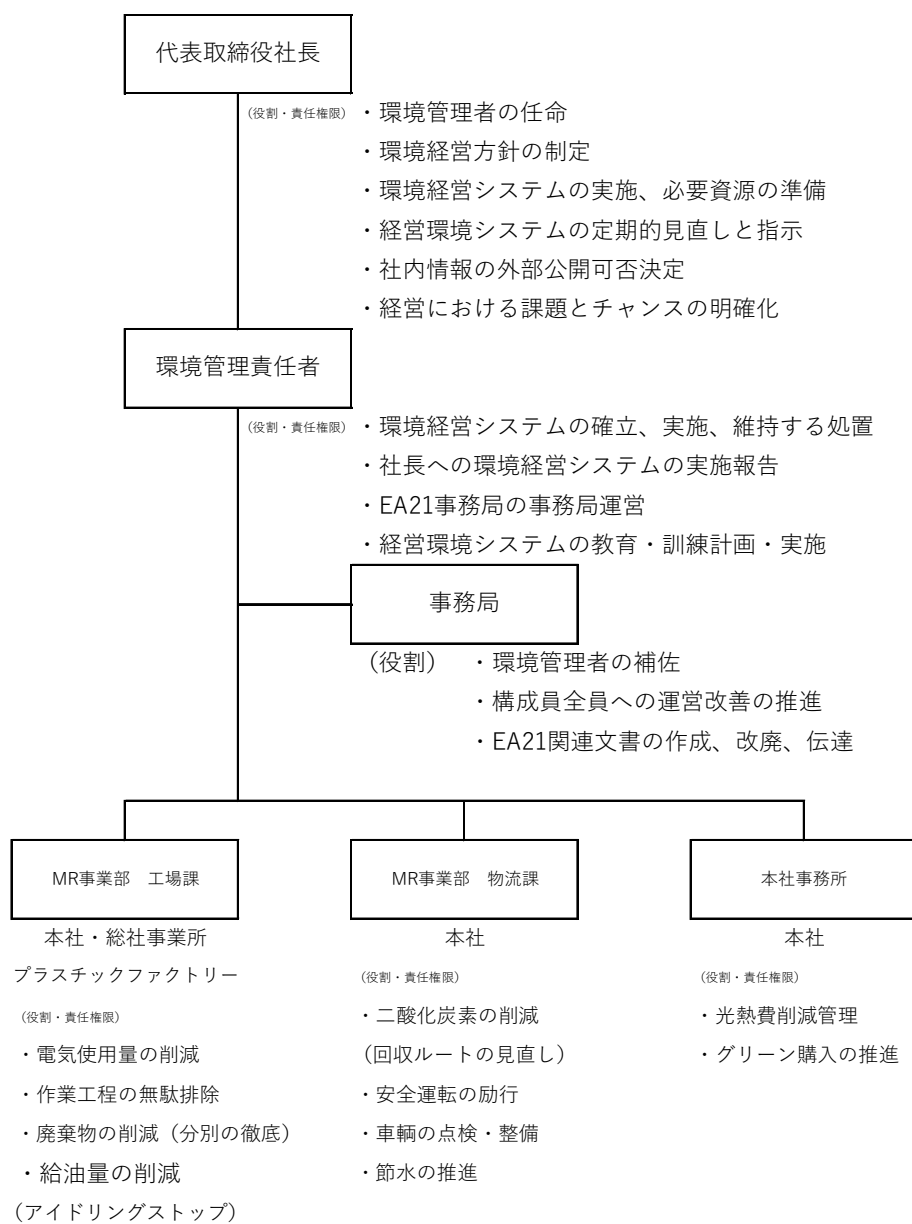
8. 施設等の状況

- ・収集・運搬 表-2・表-3 参照

9. 処理実績

- ・受託廃棄物の処理量 表-4 参照

1-6 組織図



- ・当社は環境管理責任者の下に具体的取組事項を推進する。
- ・具体的取組の推進状況の調整は、環境管理責任者と話し合い会合でまとめる。
- ・環境管理責任者は、エコアクション21の要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実施し、管理する。
- ・環境管理責任者は、代表者に代わってエコアクション21全体の構築及び運用に責任を持つとともに、必要な権限を与えられる。
- ・各部の担当者は、自らが組織の中でどのような役割を担っているのかを確認し、環境管理責任者の指示のもとに行動する。

1-7 登録許可内容

- ・廃棄物再生事業者登録 岡山県 第 1000015 号 (古紙、金属くず)
- ・廃棄物再生事業者登録 岡山県 第 1000020 号 (廃プラスチック類)

再生資源化物を対象としており、産業廃棄物の中間処理は行っていない。

- ・産業廃棄物処理業許可
産業廃棄物処理業としては収集運搬のみ行っている。

表-1 許可内容(産業廃棄物収集運搬)

管轄	許可番号	事業範囲	許可年月日	有効期限
岡山県	第 03300151519 号	<事業の区分> 産業廃棄物収集運搬(積替え・保管は含まない) <産業廃棄物の種類> 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、及び陶磁器くず、がれき類、汚泥、廃酸、廃アルカリ、ゴムくず	令和 6 年 12 月 6 日	令和 11 年 11 月 3 日
愛知県	第 02300151519 号	<事業の区分> 産業廃棄物収集運搬(積替え・保管は含まない) <産業廃棄物の種類> 廃プラスチック類、紙くず、木くず、金属くず、動植物性残さ	令和 4 年 5 月 19 日	令和 9 年 3 月 29 日
広島県	第 03400151519 号	<事業の区分> 産業廃棄物収集運搬(積替え・保管は含まない) <産業廃棄物の種類> 廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く)、陶磁器くず及びがれき類(これらのうち廃プリント配線板、廃ブラウン管、鉛製の管又は板、廃石膏ボード、廃容器包装及び石綿含有産業廃棄物を含み、鉛蓄電池の電極、自動車等破砕物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く。)	令和 7 年 2 月 3 日	令和 12 年 2 月 2 日

1-8 施設等の状況

表-2 運搬車両の種類と台数

車両形式	台数	車両形式	台数
4 t トラック (クレーン付)	1 台	4 t トラック	1 台
3.5 t 塵芥車	9 台	2 t アームロール	1 台
4 t 塵芥車	1 台	3.5 t アームロール	1 台
営業車両	5 台		

- ・トラックスケール (40 t) 2 基
- ・2 t スケール 1 基
- ・フォークリフト 5 台
- ・ミニショベル 1 台

施設

表-3 施設

名称	全自動横型プレス SBP-1108F
所在地	本社・工場所在地に同じ
方式	圧縮梱包
能力（規模）	5.0～7.0 t/h (30.0kW)
取扱物の種類	① 紙くず ② 廃プラスチック類 ③ 金属くず（アルミ）

名称	発泡スチロール減容器
所在地	総社事業所所在地に同じ
方式	破碎溶解
能力（規模）	80kg/h (17.9kW)
取扱物の種類	① 廃プラスチック類

名称	押出機 RGA120TE エレマジヤパン製
所在地	プラスチックファクトリー所在地に同じ
方式	破碎溶解
能力（規模）	600kg/h
取扱物の種類	① 廃プラスチック類

名称	押出機 INTAREMA®1310TVEplus® エレマジヤパン製
所在地	プラスチックファクトリー所在地に同じ
方式	破碎溶解
能力（規模）	600kg/h
取扱物の種類	① 廃プラスチック類

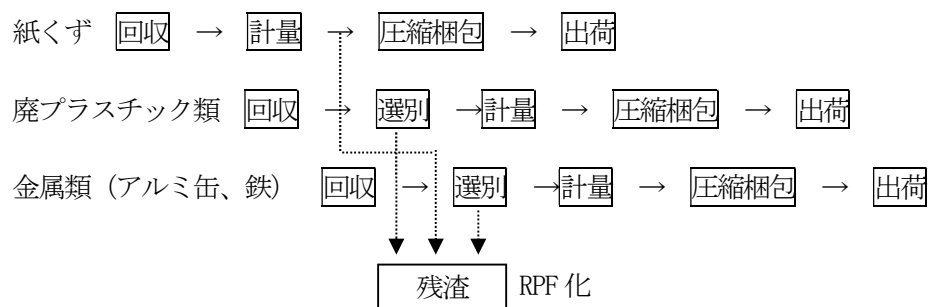
名称	大型破碎機 DRS900-C-W 大達精工所製
所在地	プラスチックファクトリー所在地に同じ
方式	破碎
能力（規模）	500kg/h
取扱物の種類	① 廃プラスチック類

- ・ 処理工程表
(収集運搬事業)

収集運搬

 → 再生工場・中間処理施設・最終処分業者へ持込

(再生資源の回収及びリサイクル事業)



1-9 取扱実績

表-4 処理実績

本社・総社事業所・プラスチックファクトリー (P.FA) 合計を記載します。

期間：令和6年1月～令和6年12月

種 類		処理方法	処理量、 t
産業廃棄物	廃プラスチック類	収集運搬	96.9
再生資源物	紙くず	回収、再資源化	7,830
	廃プラスチック類		4,808
	金属くず		92.4
	小計	12,827.3	
	合計		12,924.2
二酸化炭素排出量		1,095,453kg-Co2/年	

(本社・工場と P.FA は、2023 年度 関西電力㈱調整後排出係数 0.419kg-CO2/kwh を使用)
 (総社事務所は、2023 年度 中国電力㈱調整後排出係数 0.520kg-CO2/kwh を使用)

環境経営方針

当社は 3R 活動を通じて美しい地球と限りある資源を未来に残すため、お客様の廃棄物コスト削減と循環型社会の形成を目指し社会に貢献し、経営における課題とチャンスを定期的に明確化し、環境負荷低減に配慮した活動を継続的に改善するため、以下の「環境経営方針」を定め、全従業員に周知・徹底致します。

1. 本来業務の見直し

環境への取組を通して、業務の無駄・無理を徹底的に排除し、業務改善を図ります。
顧客の要望に応え、新市場（地域・品目・顧客）の開拓に注力します。

2. 環境保全活動

- ・ 受託廃棄物の再資源化に取組み、リサイクル率の向上を図ります。
- ・ 最新の公害防止技術・環境保全技術の導入に努めます。

3. 省資源・省エネルギー活動

- ・ 運搬車及び構内車両の経済的、効率的な運転による二酸化炭素排出量の削減に取り組む。
- ・ 事業所内の整理・整頓・清掃・清潔に留意し、電力・紙・水等資源の使用量の削減等環境負荷低減に努めます。

4. リサイクル活動による省資源化の推進

- ・ 省資源活動の一つとして、リサイクル品・グリーン購入等の使用を推進します。

5. 環境関連法規等の遵守と周知

- ・ 環境活動を推進するに当り関連する法律等の遵守と社員への周知を徹底します。
- ・ 全員の EA21 意識向上を図る。

制定日：平成 26 年 9 月 1 日

改定日：令和 4 年 6 月 1 日

ダイセーエコロジー株式会社

代表取締役社長 高田欣孝

3. 環境経営目標とその実績

(1) 本社工場

本年は表 5-1 の中長期目標の第 2 期に当たる。

CO2, 排水量削減は売上高原単位で設定し、令和 6 年度比で毎年 1 % ずつ削減する。

廃棄物削減については再資源化率 99.7% を維持し、グリーン購入に関しては種類数を増やすことを目標とする。化学物質の使用はなく、目標設定はしない。

表-5-1 令和 6 年度以降の環境経営目標（CO2 排出量及び排水量は単位売上当り）

項目	単位	令和 5 年度 (基準年度)	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
CO2 排出量	k g・CO2/ 単位売上	3,548	3,513	3,477	3,443	3,408	3,374
電力	k g・CO2/ 単位売上	326	323	320	316	313	310
化石燃料	軽油 k g・CO2/ 単位売上	3,101	3,070	3,040	3,009	2,979	2,949
	ガソリン k g・CO2/ 単位売上	120.7	119.5	118.3	117.1	115.9	114.8
受託廃棄物再資源化率	%	99.7	99.7	99.7	99.7	99.7	99.7
水使用量	m ³ /単位売上	0.56	0.55	0.55	0.54	0.54	0.53
グリーン購入	品数 (種類)	20	20	20	20	20	20
一般廃棄物	t/年	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6

表-6 に令和 6 年度の環境負荷の実績（総量）を示す

表-6 令和 6 年度の環境負荷の実績（総量）

CO2 排出量		k g -CO2/年	319,555
廃棄物	受託廃棄物(再生資源物)量	t /年	8,901
	再資源化量	t /年	8,855
	一般廃棄物	t/年	0.6
	廃棄物排出量 (RPF 化)	t /年	46.0
	資源化率	%	99.5
水使用量		m ³ /年	75
一般廃棄物		t/年	0.6

表-7 に令和 6 年度の環境負荷の実績（原単位）を示す

表-7 令和 6 年度の環境負荷の実績（単位売上当り）

CO2 排出量		k g CO2/単位売上	3,215
廃棄物	受託廃棄物(再生資源物)量	t /単位売上	89.5
	再資源化量	t /単位売上	89.1
	廃棄物排出量 (RPF 化)	t /単位売上	0.46
水使用量		m ³ /単位売上	0.75

(2) 総社事業所 環境経営目標

中長期目標は令和6年度から令和10年までの5年間とし、本年は第2期に当たる。
CO2、排水量削減は売上高原単位で設定し、令和6年度の実績値で毎年1%ずつ削減する。表-8に令和6年度以降の環境目標を示す。

表-8 令和6年度以降の環境経営目標（CO2排出量及び排水量は単位売上当り）
令和6年度～10年度の中長期目標とする。

項目	単位	令和5年度 (基準年度)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
CO2排出量	k g-CO2/単位売上	95.3	94.3	93.4	92.5	91.5	90.6
電力	k g-CO2/単位売上	95.3	94.3	93.4	92.5	91.5	90.6
受託廃棄物 再資源化率	%	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0	94.0
水使用量	m ³ /単位売上	0.43	0.42	0.42	0.41	0.41	0.41

表-9に令和6年度の環境負荷の実績（総量）を示す

表-9 令和6年度の環境負荷の実績（総量）

CO2排出量		k g-CO2/年	6,205
廃棄物	受託廃棄物(再生資源物)量	t/年	530.9
	再資源化量	t/年	506.5
	廃棄物排出量(RPF化)	t/年	24.5
	資源化率	%	95.4
水使用量		m ³ /年	45

表-10に令和6年度の環境負荷の実績（原単位）を示す

表-10 令和6年度の環境負荷の実績（単位売上当り）

CO2排出量		k gCO2/単位売上	62.4
廃棄物	受託廃棄物(再生資源物)量	t/単位売上	5.3
	再資源化量	t/単位売上	5.1
	廃棄物排出量(RPF化)	t/単位売上	0.25
	水使用量	m ³ /単位売上	0.45

(3) プラスチックファクトリー 環境経営目標（令和6年度以降）

中長期目標は令和6年度から令和11年までの5年間とし、本年は第2期に当たる。
CO2、排水量削減は売上高原単位で設定し、令和6年度の実績値で毎年1%ずつ削減
する。表-11に令和6年度以降の環境目標を示す。

表-11 令和6年度以降の環境経営目標（CO2排出量及び排水量は単位売上当り）

項目	単位	令和5年度 (基準年度)	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
CO2排出量	k g・CO2/ 単位売上	6,119	6,058	5,997	5,937	5,878	5,819
電力	k g・CO2/ 単位売上	6,098	6,037	5,977	5,917	5,858	5,799
化石燃料 軽油	k g・CO2/ 単位売上	20.8	20.6	20.4	20.2	20.0	19.8
受託廃棄物 再資源化率	%	98	98	98	98	98	98
水使用量	m ³ /単位売 上	8.03	7.95	7.87	7.79	7.71	7.63
グリーン購 入	品数(種類)	15	15	15	15	15	15
一般廃棄物	t/年	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6

表-12に令和6年度の環境負荷の実績（総量）を示す

表-12 令和6年度の環境負荷の実績（総量）

CO2排出量		k g -CO2/年	803,363
廃棄物	受託廃棄物(再生資源物)量	t/年	3,370
	再資源化量	t/年	3,343
	一般廃棄物	t/年	0.6
	廃棄物排出量 (RPF化)	t/年	27.0
	資源化率	%	99.2
水使用量		m ³ /年	1,278
一般廃棄物		t/年	0.6

表-13に令和6年度の環境負荷の実績（原単位）を示す

表-13 令和6年度の環境負荷の実績（単位売上当り）

CO2排出量		k g CO2/単位売上	8,082
廃棄物	受託廃棄物(再生資源物)量	t/単位売上	33.9
	再資源化量	t/単位売上	33.6
	廃棄物排出量 (RPF化)	t/単位売上	0.27
水使用量		m ³ /単位売上	12.9

4. 主な環境経営計画

(1) 環境経営目標を達成するための取組

※表-15 に責任部門を記載

- 1) 業務の見直し
 - ・各工程における無駄・無理を徹底的に排除し、業務改善を図ります
 - ・新規顧客の獲得
 - ・顧客満足度の把握
 - ・社員教育
 - ・業務環境改善
- 2) 燃料使用量の削減
 - ・アイドリングストップを行う
 - ・エコドライブの徹底
 - ・車両点検整備の徹底
 - ・車両燃費 5%向上
 - ・各月の二酸化炭素排出量の見える化を行う
- 3) 電気使用量の削減
 - ・エアコンの設定温度は冷房は28℃以上、暖房は23℃とする
 - ・エアコンの保守点検を行う
 - ・省エネタイプのOA機器の導入
 - ・不要証明の消灯
- 4) 廃棄物排出量（再資源化に関する取組）
 - ・分別を徹底し、再利用・再生率を上げ、削減に努める
 - ・各工程での廃棄物の発生抑制（スポット回収先へのリサイクル不能分の分別依頼）
 - ・自社の一般廃棄物は極力減少させる
- 5) 水使用量（節水の取組）
 - ・こまめな節水
 - ・洗車時の節水（ストップバルブ）
 - ・節水の呼びかけ
- 6) グリーン購入
 - ・事務用品のグリーン購入を推進する
- 7) 地域貢献
 - ・学校行事への協力を行う

5. 環境経営目標の実績と評価

環境経営目標と結果（全社トータル）

表-14 に令和6年1月～令和6年12月における取組結果を示す

表-14 令和6年1月～令和6年12月における取組結果

項目		単位		実績	目標	目標達成率 (%)
CO2排出量		kg-CO2	売上高千万円当たり	11,359	9,665	85%
			総量	1,129,123		
内訳	電力	kw/h	総使用量	833,553		
		kg-CO2	売上高千万円当たり	8,386	6,454	77%
			総量	833,553		
		軽油	ℓ	総使用量	285,947	
	kg-CO2		売上高千万円当たり	2,877	3,090	107%
			総量	285,947		
	ガソリン		ℓ	総使用量	9,623	
		kg-CO2	売上高千万円当たり	97	119.5	123%
			総量	9,623		
		受託産業廃棄物		資源化率 (%)	-	97.6
水使用量		m³	総使用量	1391		
			売上高千万円当たり	14.06	8.92	63%
			総量	1398		
グリーン購入		品数(種類)	総量	49	35	140%
一般廃棄物		t	総量	1.20	1.2	100%

※全社トータル分

本社・工場とP.FAの購入電力のCO2排出係数(調整後排出係数)は2023年度関西電力0.419kg-CO2/kWhを使用

総社事務所の購入電力のCO2排出係数(調整後排出係数)は2023年度中国電力0.520kg-CO2/kWhを使用

(2) 評価

① CO2排出量

- 目標9,665kg/単位売上に対し実績は11,359kg/単位売上で目標達成率は85%と未達成となっている。
- 要因としては、プラスチックファクトリーで使用する電力量が大幅に増加したことである。ただし、こちらについてはプラスチックファクトリーの生産量向上と電力使用量の増加は切り離せない部分となるため、不要な電力消費は見直さなければならないが、実際の使用量に基づいた目標の再設定を行うことが必要であると考えています。

② 受託廃棄物の再資源化等

- 再資源化目標率97.2%に対し実績は97.6%で達成。有価物として入荷しているため、その中から出てくる一部の材料が使用不能な産廃として廃棄処分となっている。(リサイクル困難なプラスチックや加工された古紙は産廃としてRPF向けに出荷)

③ 水使用量

- 目標8.92m³-単位売上に対し実績は14.06m³-単位売上で目標達成率は63%となつ
- 生産ラインの稼働時間の増加により使用量が増加した。

④ グリーン購入

- 目標35品に対して実績49品で目標達成(140%)となった。










6. 環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1) 本年度の環境経営計画の取組内容

表-15 に環境経営計画の取組内容を示した。

表-15 環境経営計画の取組内容

作成日：令和6年1月9日

推進計画	施策	担当部署	担当	実施計画	備考(具体的方法)		
				R6.1.1～R6.12.31			
業務の見直し	・各工程における無駄を抽出する	各部	全員		各部会にて情報の共有を行う 教育のロードマップを作成 車両の増車・作業員の増員を行う		
	・新規顧客の獲得						
	・顧客満足度の把握						
	・社員教育						
	・業務環境改善						
燃料使用量の削減	・アイドリングストップを行う	岡山リサイクル工場	全員		物流会議(月1回)にて周知、徹底		
	・エコドライブの徹底						
	・車両点検整備の徹底						
	・走行距離の短縮化を図る						
	・車両燃費5%向上						
電気使用量の削減	・二酸化炭素排出量の見える化を行う	岡山リサイクル工場	全員				
		P.F.A					
	・エアコンの設定温度は冷房は28℃、暖房は23℃とする	事務所					
	・エアコンの保守点検を行う						
	・省エネタイプのOA機器の導入						
	・不要照明の消灯						各部
廃棄物排出量の削減	・分別を徹底し、再利用・再生率を上げ、削減に努める	各部	全員		各部会にて周知、徹底		
	・各工程での廃棄物の発生抑制						
	・自社の一般廃棄物は極力減少させる						
水使用量の削減	・こまめな節水	各部	全員		各部会にて周知、徹底		
	・洗車時の無駄の削除	岡山リサイクル工場					
	・節水の呼びかけ	各部					
グリーン購入	・事務用品のグリーン購入を推進する	事務所	全員		購入努力		
地域貢献	・学校行事への協力を行う	各部	全員		リサイクル活動や工場見学への協力		

- (2) 本年度の環境経営計画の評価と次年度の取組内容
表-16 に環境経営計画の評価と次年度の取組内容を示した。

表-16 環境経営計画の評価と次年度の取組内容

作成日: 令和6年1月9日
評価日: 令和7年3月6日

活動計画の内容				評価		
推進計画	施策	担当部署	担当	段階	内容	次年度の活動
業務の見直し	・各工程における無駄を抽出する	各部	全員	B	課題が発生した場合、都度対応を行っている。	継続
	・新規顧客の獲得			A	順調に拡大していている。	
	・顧客満足度の把握			B	お客様の声を社内で共有出来ている。	
	・社員教育			B	手順を定め、それに沿って業務を進めることが出来ている。	
	・業務環境改善			B	車両・人員の増員により産業時間の削減が進めれている。	
燃料使用量の削減	・アイドリングストップを行う	岡山リサイクル工場	全員	B	周知されているが不十分な部分がある。	継続
	・エコドライブの徹底			B	周知されているが不十分な部分がある。	
	・車両点検整備の徹底			B	周知されているが不十分な部分がある。	
	・走行距離の短縮化を図る			C	顧客の要望により変更することがあり、改善の余地あり。	
	・車両燃費5%向上			C	周知されているが不十分な部分がある。	
電気使用量の削減	・二酸化炭素排出量の見える化を行う	岡山リサイクル工場	全員	E	見える化が行えていない。	継続
		P.F.A				
	・エアコンの設定温度は冷房は28℃、暖房は23℃とする	事務所		D	設定温度の見直しが必要。	継続
	・エアコンの保守点検を行う			B	周知されているが不十分な部分がある。	
	・省エネタイプのOA機器の導入			B	引き続き購入努力をする。	
	・不要照明の消灯	各部	A	社内で周知、徹底されている。		
廃棄物排出量の削減	・分別を徹底し、再利用・再生率を上げ、削減に努める	各部	全員	A	社内で周知、徹底されている。	継続
	・各工程での廃棄物の発生抑制			A	社内で周知、徹底されている。	
	・自社の一般廃棄物は極力減少させる			A	社内で周知、徹底されている。	
水使用量の削減	・こまめな節水	各部	全員	A	社内で周知、徹底されている。	継続
	・洗濯時の無駄の削除	岡山リサイクル工場		A	社内で周知、徹底されている。	
	・節水の呼びかけ	各部		A	社内で周知、徹底されている。	
グリーン購入	・事務用品のグリーン購入を推進する	事務所	全員	B	引き続き購入努力をする。	継続
地域貢献	・学校行事への協力を行う	各部	全員	A	いただいた案件には全て対応出来ている。	継続

A: 100%出来ている B: 80%出来ている C: 50%出来ている D: 30%出来ている E: 出来ていない

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

表-17 環境関連法規等の遵守状況の確認

項 目	関連法規	能力・取扱量等	該当有 無	遵守確認	備考
廃棄物再生事業者登録	廃掃法	古紙、金属くず プラスチック類	有	届出済	
廃棄物収集運搬業	廃掃法	岡山県、愛知県、広 島県 ※種類は表-1 参照	有	届出済	
委託処理契約の締結 契約書の保存	廃掃法	契約終了の日から 5 年間	有	保存確認	
処理実績報告書	廃掃法	毎年 6 月末	有	報告済	
マニフェストの発行、保存	廃掃法	5 年間保存	有	保存確認	
圧縮施設（圧縮梱包機）	廃掃法	5.0～7.0 t/時	無	届出不要	※有価物処理に つき届出不要
空気圧縮機	騒音規制法	5.5Kw	有	届出済	
送風機	騒音規制法	5.5Kw	有	届出済	
フロン	フロン 排出抑制法	第 1 種特定製品等 使用の有無	有	記録確認	
合併浄化槽	浄化槽法	家庭排水・し尿（点検・検 査）	有	水質検査 書確認	
指定可燃物貯蔵	消防法	再生資源燃料・合成樹脂	有	届出済	

違反・訴訟などの有無

- ・当社の事業活動に関する環境関連の法令違反はありません。
- ・関係当局からの違反等の指摘は、過去 3 年なく訴訟もありません。

8. 代表者による全体評価と見直し・指示

評価日：令和7年3月20日

1) 全体評価

① 環境経営目標の達成状況

CO2 排出量はkg-CO2/単位売上当りで目標未達成となった。目標未達成の要因としては、生産数量の増加のために稼働時間＝電力使用量が増加したことが大きい。1ラインのみの深夜稼働だったものをシフトにより2ライン稼働にしたことが電力使用量の増加につながっている。人員補強により完全な2ライン体制となった場合、さらに1.3倍程度の増加が見込まれる。リサイクルペレットの需要は増加傾向にあるので、令和6年に定めた目標を再度、見直すことが必要となる。軽油については車両の増車はあるが、1台は予備車となるので、使用量については大きな変動はない。

② 是正及び予防措置

是正処置・予防処置報告書にて確認。

③ 法規制

問題なく遵守されている。

④ 環境経営システム

特に見直しの必要性なし。

⑤ 実施体制

特に見直しの必要性なし

2) 代表者の指示

① 環境経営方針 変更の必要性・・・なし

② 環境経営目標 変更の必要性・・・来年度以降の目標数値の設定を見直す

③ 環境経営計画 変更の必要性・・・次年度、増車による配車計画、走行ルート等
の見直し、非効率な業務の効率化、緊急事態への準備及び対応の
明確化が必要。担当責任者は各項目の評価を定期的に行い、部
門で共有を図りCO2減少を図るよう指示。

④ 環境経営システム 変更の必要性・・・なし

3) 課題とチャンス

	課題	チャンス	環境経営方針
外部	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少 ・廃棄物減少 ・顧客処分ニーズ（再資源化）への対応 ・燃料費の上昇 ・廃棄物処理法等の法令改正 	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネによるコスト削減 ・新市場（地域・品目・顧客）の開拓 ・顧客の要求に応えることによる需要の拡大 ・燃料購入先の見直し ・法改正への確実な対応 ・変化する情勢への柔軟な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネの増進 ・顧客満足度の向上 ・地域コミュニケーション推進 ・労働環境の整備 ・適正な販売価格の設定
			環境関係目標・活動計画
内部	<ul style="list-style-type: none"> ・燃料の大量使用 ・運搬車両の老朽化 ・人手不足 ・人件費の上昇 ・設備の運用方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート見直し・アイドリングストップでのコスト削減 ・計画的な車両の増車・更新 ・社員の労働環境改善 ・一人当たりの生産性向上 ・全作業工程をDX化（デジタルトランスフォーメーション）による生産性向上 ・2ライン稼働による生産量向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・車両燃費向上5% ・新規顧客の獲得 ・顧客満足度の把握 ・地域貢献活動 ・社員教育・業務環境改善

《総評》

今年度も取扱量・生産量の増加により売上が伸びる結果となりました。CO2 排出量は増加しましたが、経営活動としては問題がないので、今後も適切な使用量かという点に目を向け、不必要な電気の使用量削減について社員一同意識を持って取り組んでいきます。

また、2027 年には新工場の開設も控えているので、そちらについても CO2 排出量の算出が行えるよう進めて行きます。

今回の結果で目標達成となった項目についても、未達成の項目同様に社員全員で改善点を模索・共有し、目標達成に向けて活動を継続し、取引先のお客様及び地域の皆様の信頼を得る事ができるように努めてまいります。